

第2回 環境にやさしい暮らしの円卓会議 ライフスタイル分科会  
2011年12月20日

## 前回の円卓会議のおさらい

# 前回の円卓会議の振り返り

- 前回は、市民をはじめするメンバーから自由な意見を出してもらうことを目的として、グループワーク形式で検討を行いました
- 「30年後の水俣像」の検討では、メンバー全員を3つのグループに分け、それぞれが考える「30年後の水俣像」をいくつでも出してもらい、これをグループ内で共有しました
- 「5年以内に実現したいこと」では、全メンバーがそれぞれ付箋に自分の考えを書き、これを壁に張り付け、発表と共有を行いました



「30年後の水俣像」について  
グループワークで検討

「30年後の水俣像」の共有  
各グループでの検討結果を発表



「5年後までに実現したいこと」  
全メンバーから意見集約

# 30年後の水俣像の検討(A班)

ピンピンころりのまち

水俣に暮らした人全てがこのまちに生きてよかった！と思えるまち

## ハード面

30年後は、天草と橋でつながり、橋では色々なイベントが行われる。橋のどこからでも釣りができる。全国から釣りファンのメッカとなっている

30年後は、市内どこにも行けるモノレールがあり、観光にも市民の足として動いている  
モノレールはもちろん市内で発電した電気を使っている

## 30年後の働き方

気候の良い時期だけ仕事し、暑い日は海で魚釣り

自然と生産(ものづくり)と暮らしがしっかり繋がっているまち

高校卒業生が全員残るまち、残りたいまち  
※水俣市の中での最高学府が高校のままの場合

本物の環境大学が出来ている

## ライフスタイル(ソフト)

ひとりひとりの苦勞が生きていく社会(楽あれば苦あり。苦あれば楽あり)

ひとりひとりの知的感性的リソースに自由にアプローチできる

30年後物々交換で暮らしていけるまち。

30年後は市内中心部に田や畑が増えて、全体が緑に囲まれた町になっている。農業も自分の家の前でできる。

全ての家庭に家庭菜園があるまち。

地域ごとのまとまりがある、かつ個人個人の個性が許される

他の人の幸せを考える人が一番幸せになるまち

産業団地がエコ産業で活性化  
若者の地産地消

エネルギーの自給自足  
食物の自給自足

## 人口

|      |        |
|------|--------|
| 人口   | 3万~4万人 |
| 年少人口 | 1万人    |
| 生産人口 | 2万5千人  |

人口は出来るだけ少なく。  
海・山・川の幸が余るくらい的人口が素敵

# 30年後の水俣像の検討(B班)

## 「うるおい」のある生活

### 観光 ～ 海 ～

不知火海の海底ブラス迷路

恋路島は利用出来ないか...

### エネルギー

休耕地に太陽光発電

全ての家庭で自家発電

### 交通手段

自転車と徒歩が移動の主流となる  
省資源、健康になる

移動手段によって中央と地方の  
時間的短縮  
(短時間移動を実現したい)

電柱、電線がないまち

市内の隅々までライトレールを走  
らせる、車要らず

### 農業・地産地消

水俣の地域通貨で日常の  
消費が賄えるようになる

大関山伏流水の水工場

農産物を粉末にして健保  
食品を作る

お金をあまり使わない生活が主流となる  
(「物が域外から入って来なくなる。使いたくてもお金が使えないかも」)

完全な地産地消

農業用地を造る

食に関する全てが域内  
で調達できる社会の実現  
(食の安全観点から)

## 安心・安全な生活

### 仕事がある

希望者全員が水俣で働ける

### 安全な暮らし・防災

地下の文化会館  
(避難所兼用)

医療・介護の心配がいらぬまち  
(すごく現実的ですが)  
音(雑音のない)世界  
静かな社会

### 安心できる暮らし

水俣のライフスタイル(生き方)が世界的な健康ブームを巻き起こす  
「食」、「生活」、「趣味」など健康的な生き方が流行る

# 30年後の水俣像の検討(C班)

## 若い人と子供が 元気な街

元気で働き続けられる

水俣を大好きな子供がいっぱいいる

「子育てのまち水俣」  
「幼児期だけでも水俣で」  
都市部の母親が殺到

子供が帰ってこれるまち

## 元気な農林漁業

山と川と海で自給して暮らす

農林漁業をすると飯が食えてしまうまち

安心安全な食べ物が、すぐ  
手に入るようになっている

農業者が普通に働き普通の  
生活が出来る

木造住宅100%

森林で食えるまち

自給自足でリサイクルできる  
まち

「水俣 自給自足」  
暮らしに必要なもの全て地  
産地消

## 色んな文化が育つ街

里山で文化作り

行列のできる巡礼の聖地水俣  
(食・農・森・環境)

街中には「花」があふれている  
きれいな街になっている

## 移動のしやすい街

可能な限り地域の中で孤立  
せずに生活できる

山を削って海を埋め立て全部平  
地

百円タクシーが走っている  
安い！

バス停が200mに1箇所くらいあ  
り、乗り降りが便利になっている

自家発電だけで暮らす街

## 安心な生活を送れる街

高齢者が安心して暮らせる街  
になっている

水俣には病気の人が少ない  
ニコニコ顔

年代別に片寄らない  
生活基盤がある

近代化を超え少ない金で  
豊かに生きる街

水俣市民総中流

# 5年以内に実現したいこと①

## 農林漁業

水俣の水をブランド化し販売、同一ブランドで農水産物を販売

植樹園を作る

- ・子供が産まれた
- ・結婚した
- ・金婚式 等 ...

被災者を受け入れて移住、就農

年に一人一作物を作る事業をやる。農業に親しむ機会を作る。CO2削減の取組みにもなる。

間伐材を利用してチップ化し、固定化してストーブに活用する。

薪ストーブ購入の補助制度ができる。

毎年1ha 新しい農地を

薪ストーブの普及と市有林間伐材の販売

薪 販売

竹林間伐→竹炭焼き→田畑へ→CO2固定化

## 地産地消・食の安全

カボチャのスイーツづくり

菜種油の惣菜

アイスクリームの商品化  
(地産品)

わかめアイス再び  
(CO2は炭火焼で固定)

水俣産だけの食卓の日  
(市報に載せる)

食の安全を都市部へ発信

小児若年者の放射線内部被曝を防ぐ包括的食品検査

# 5年以内に実現したいこと②

## 地域経済 (産業・雇用)

### 【仕事】

ネット起業しやすい環境づくり  
1. 市役所「ネット起業支援室」  
2. 中学、高校の部活動として

介護現場で働く人たちの環境整備を

### 【産業】

高速道路ののり面にCO2を吸収しやすい  
作物を植える。管理費も入ってホクホク。

## 観光

湯の鶴・湯の児の温泉をペットも利用で  
きる温泉に！！  
ペットと人が一緒に泊まれる

環境聖地としての研修  
御札販売、免罪符販売

秋葉山に「水」の字でもみじを植樹

## エネルギー

学校に太陽光発電  
(小学校、中学校、高校も)  
まずは学校の電力は自給自足

## 交通

必要なときにいつでも利用できる  
交通手段

## 教育・子育て

まずは通信教育の環境大学からスタート！！

育児期間の住宅供給

## 安全・安心

市営住宅の駐車場を畑にして、一人暮らしの入居者のコミュニティを作る。みんなで作物を作って楽しく過ごす。

人生相談カウンセリング機能を充実

市民の憩いの場となるが街角ポケット  
パークが整備される。

環境被害地の人の苦労が癒されるコ  
ミュニケーション

気軽に相談できる窓口の整備を

民生委員のような人々のスキルアップと  
待遇改善

注文配達(安価で)完備

### 【健康】

・健康ポイント制度の導入  
定期健診を受ける。献血をするなどで  
ポイントをGet！たまったポイントは病院  
などで使える

# **みなまたの将来像のまとめ**

# 30年後の水俣像について各班意見の整理

| 分野               | A班                                                                                                                                                    | B班                                                                                                                                                             | C班                                                                                                                                                                            |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の全体像           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水俣に暮らした人全てがこのまに生きてよかった！と思えるまち</li> <li>・ 産業団地がエコ産業で活性化</li> <li>・ 若者の地産地消</li> <li>・ 物々交換で暮らしていける</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うるおいのある生活</li> <li>・ 安全・安心な生活</li> <li>・ 希望者全員が水俣で働ける</li> <li>・ お金をあまり使わない生活が主流となる</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人と子供が元気な街</li> <li>・ 色んな文化が育つ街</li> <li>・ 安心な生活を送れる街</li> <li>・ 元気で働き続けられる</li> <li>・ 少ない金で豊かに生きる</li> <li>・ 水俣市民総中流</li> </ul>    |
| 食と農              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内中心部に田や畑が増えている</li> <li>・ 農業が自分の家の前でできる</li> <li>・ 全ての家庭に家庭菜園がある</li> <li>・ 食物の自給自足</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業用地を造る</li> <li>・ 農産物を粉末にして健康食品を作る</li> <li>・ 大関山伏流水の水工場</li> <li>・ 完全な地産地消</li> <li>・ 食に関する全てが域内で調達できる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林漁業で飯が食えるまち</li> <li>・ 農業者が普通に働き普通の生活が出来る</li> <li>・ 森林で食える</li> <li>・ 自給自足でリサイクルできる</li> <li>・ 安心安全な食べ物が、すぐ手に入るようになっている</li> </ul> |
| エネルギー            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギーの自給自足</li> </ul>                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休耕地に太陽光発電</li> <li>・ 全ての家庭に自家発電</li> </ul>                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自家発電だけで暮らすまち</li> </ul>                                                                                                              |
| 福祉・子育て・コミュニケーション |                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下の文化会館(避難所兼用)</li> <li>・ 医療・介護の心配がない</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が安心して暮らせる</li> <li>・ 病気の人が少ない</li> <li>・ 年代別に片寄らない生活基盤がある</li> <li>・ 子育てのまち水俣</li> </ul>                                          |
| 交通・観光            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内どこにも行けるモノレールがあり、観光にも市民の足として動いている</li> <li>・ 天草と橋でつながり、橋では色々なイベントが行われる</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央と地方の時間的短縮</li> <li>・ 市内の隅々までライトレールを走らせる</li> <li>・ 自転車と徒歩が主流の生活</li> <li>・ 不知火海の海底トンネル</li> <li>・ 恋路島の活用</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス停が200mに1箇所くらいあり、乗り降りが便利になっている</li> <li>・ 百円タクシー</li> <li>・ 行列のできる巡礼の聖地水俣(食・農・森・環境)</li> </ul>                                      |
| 教育               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本物の環境大学が出来ている</li> </ul>                                                                                     |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                               |

# 30年後の水俣像のまとめ

- 円卓会議においてメンバーから出された「30年後の水俣像」に関する意見を事務局で以下のように整理しました

- 農林漁業が活性化され、従事する人の生活も豊かになっている
- 市内は緑や花にあふれ、家庭菜園が多くの家にある
- 地産地消の推進により、食物の自給率が大幅に向上し、安心安全な食べ物が容易に手に入る

- 高齢者をはじめ、市民誰もが安全・安心に暮らせる社会基盤が整備されている
- 「子育てのまち水俣」が定着している

- 休耕地への太陽光発電、各家庭での自家発電等により、エネルギーの自給自足を達成

## 食と農

## エネルギー

## 教育

## 交通・観光

## 福祉・子育て・コミュニケーション

### 地域の全体像

- 若者から高齢者まで元気に安心して暮らせるまちになっている
- 水俣市の産業が活性化し、雇用を創出している
- モノ・カネの域内循環が盛んになり、水俣市全体が豊かになっている

- 公共交通機関の整備により、市民の移動が便利になっている
- 新たな観光スポットの発掘や、食・農・森など環境への取り組みにより、観光振興が図られている

- 本物の環境大学が出来ている

# 5年以内に実現したいことのまとめ

■ また、各メンバーからの「5年以内に実現したいこと」を事務局でテーマ別に整理しました

| 分野               | 30年後の姿(事務局まとめ)                                                                                                                                                         | 5年以内に実現したいこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食と農              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農林漁業が活性化され、従事する人の生活も豊かになっている</li> <li>● 市内は緑や花にあふれ、家庭菜園が多くにある</li> <li>● 地産地消の推進により、食物の自給率が大幅に向上し、安心安全な食べ物が容易に手に入る</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 水俣の水をブランド化し販売、同一ブランドで農水産物を販売</li> <li>● 薪ストーブの普及&amp;間伐材を利用したチップの販売</li> <li>● 植樹園を作り、市民がイベント時に木を植える</li> <li>● 1人1作物事業やイベントにより、農業に親しむ機会の創出</li> <li>● 毎年1ha新たな農地を開拓する</li> <li>● 竹林から竹炭を作り、畑にまいてCO2削減</li> <li>● 地産品を用いた商品の開発(かぼちゃスイーツ、アイスなど)</li> <li>● 地産地消を推進する施策(水俣産の食卓の日、など)</li> <li>● 放射能汚染も含めた食の安全の検査と発信を行う</li> <li>● ネット起業しやすい環境づくり</li> <li>● 高速道路のり面を活用した作物栽培</li> </ul> |
| エネルギー            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 休耕地への太陽光発電、各家庭での自家発電等により、エネルギーの自給自足を達成</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校に太陽光発電を設置し、学校の電力を自給自足</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 福祉・子育て・コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者をはじめ、誰もが安全・安心に暮らせる社会基盤が整備されている</li> <li>● 「子育てのまち水俣」が定着している</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談カウンセリング窓口の充実・人材育成</li> <li>● 市民の憩いの場となるコミュニティパーク等の設置</li> <li>● 定期健診等で貯まる「健康ポイント制度」の導入</li> <li>● 育児期間の住宅供給</li> <li>● 介護現場で働く人たちの環境改善</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                   |
| 交通・観光            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通機関の発達により、市民の移動が便利になっている</li> <li>● 新たな観光スポットの発掘や、食・農・森など環境への取組みにより、観光振興が図られている</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要なときにいつでも利用できる交通手段を作る</li> <li>● 湯の鶴・湯の児温泉をペットも利用できる温泉に</li> <li>● 環境の聖地として研修生を受け入れ、環境の免罪符を販売する(収益は環境保護活動へと活用)</li> <li>● 秋葉山に「水」の文字でもみじを植樹</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                               |
| 教育               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本物の環境大学が出来ている</li> </ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● まずは通信教育の環境大学からスタート</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

# 今後の進め方について (市役所からの提案)

# 参考)第2回合同会議(12/11)での主な意見

## 【専門委員】

- ・ 企画書としては立派だが、このアイデアを商品や街の形にしていく段階が最も大変である。街づくりには、住民の高い意識が必要。全力で次の世代のために頑張してほしい。(水戸岡委員)
- ・ 全体としてアイデアを形にしていく物語が必要である。ライフスタイル分科会に関しては、例えば、『生活の質の向上』という考え方を基に、「環境首都から生活首都へ」という物語が考えられる。(蓑茂委員)

## 【推進委員】

- ・ 今年の円卓会議は難しい。もっと市民に分かりやすくする必要がある。
- ・ 市民とともに活動していける仕組みを作りたい。
- ・ 円卓会議の意見を集約して現場に落とし込んで動き出すことが重要。そのためには住民がもっと勉強して、地域を知る必要がある。
- ・ 報告内容から水俣の特色が消えて、一般論になっている。円卓会議の名称の意味を考える必要がある。
- ・ 円卓会議の検討が市民に見えにくくなっている。より情報発信の場を作るべきである。

## 【市長】

- ・ 来年度以降も円卓会議は継続したい。どのような形式にするかは、今後の議論を受けて決めていきたい。
- ・ 各円卓会議で具体性のある事業を導き出して、第5次水俣市総合計画や環境モデル都市アクションプランに反映させ、また出来る限り次年度の事業にしていきたい。

# 今日の会議で決めたいこと

## ①検討するテーマの設定

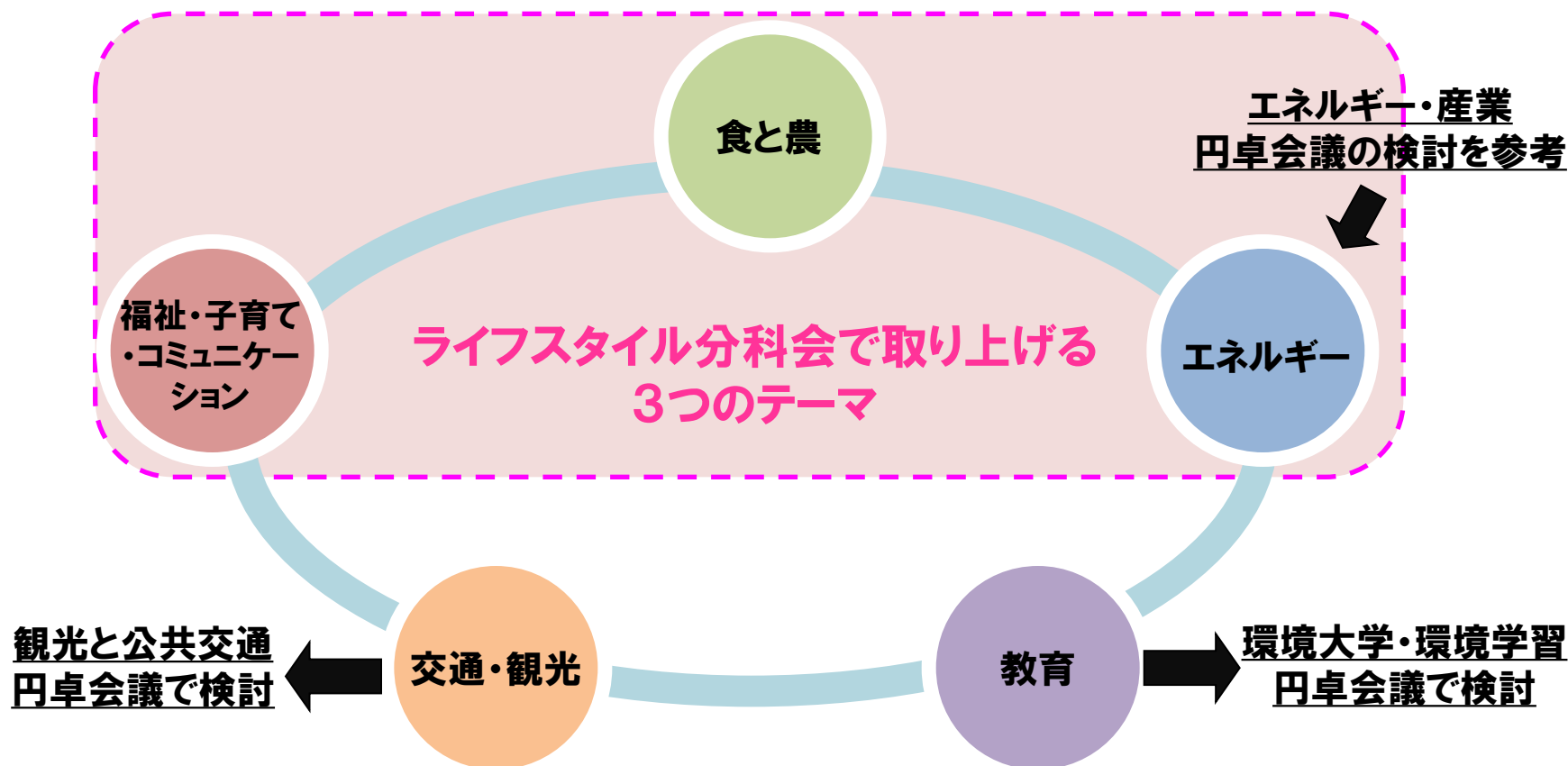
- 前回の円卓会議でメンバーから出された意見を基に、今年のライフスタイル分科会で検討するテーマを決める

## ②検討のための体制づくり(検討チームの設置)

- ①で決めたテーマごとに、今年度・来年度に行う事業を検討するための体制(検討チーム)を設置する

# ①検討するテーマの設定(市役所案)

- 今年度のライフスタイル分科会では、特に暮らしに係る取組みが可能な『食と農』、『エネルギー』、『福祉・子育て・コミュニケーション』の3つのテーマを取り上げることを提案します
- 『教育』、『交通・観光』に関するアイデアは、それぞれ関連する円卓会議へと提出します
- また、『エネルギー』に関しては、将来像としてのイメージはあるものの、5年以内に実現したいことでの意見が少なかったため、エネルギー・産業円卓会議での検討も参考とします



## ②検討のための体制づくり(市役所案)

- ①で決めたテーマに対して、検討のための体制として、各テーマの検討チームを設置します
- 各検討チームでは、取りまとめを行う世話人を円卓会議メンバーから選任します
- また市職員メンバーも各検討チームに入り、主にコーディネーター役を担います

### 福祉・子育て・コミュニケーション検討チーム

#### 【検討テーマ案】

- ・誰もが安心して暮らせるまちづくり 等

#### 【検討メンバー】

- ・円卓会議の有志メンバー
- ・市役所(健康高齢課 等)

#### 【世話人】

- ・メンバーから選任

### 食と農検討チーム

#### 【検討テーマ案】

- ・地産地消の推進(地産品を用いた商品の開発等)
- ・水俣の農産物のブランド化の推進 等

#### 【検討メンバー】

- ・円卓会議の有志メンバー
- ・市役所(農林水産課 等)

#### 【世話人】

- ・沢畑氏(愛林館)

### エネルギー検討チーム

#### 【検討テーマ案】

- ・家庭版ISOの普及
- ・エネルギーの自給自足に向けた家庭の省エネの取組促進 等

#### 【検討メンバー】

- ・円卓会議の有志メンバー
- ・有識者:熊大・田中先生
- ・市役所(総合経済対策課等)

#### 【世話人】

- ・メンバーから選任

# 検討チームでの検討項目(案)

## ①各テーマの目標を決める

- 各テーマにおける目標・ゴールを明確にする
- 特にその施策が地域活性化にどう結び付くのか、道筋(物語)を明確にする

## ②水俣の現状の把握

- 各テーマにおける水俣の現状や、これに対する関連の取組み、水俣にある資源などを把握する

## ③今年度・来年度に行う事業の検討

- ②の現状に対して、目標を達成するためにまず今年度や来年度に行うべき施策について、検討を行う
- 特に市の次年度事業へとつなげることを意識した施策を検討する

# 今後のスケジュール予定(案)

## 円卓会議の実施スケジュールと各回の検討テーマ

|    |                      |                                                                                                                                              |
|----|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 終了 | 第1回合同会議（2011年9月4日）   |                                                                                                                                              |
|    | 第1回<br>（2011年11月8日）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水俣の現状と課題の確認</li> <li>■ 今年度の円卓会議での検討課題、今後の進め方の確認</li> <li>■ 「30年後の水俣像」、「5年以内に実現したいこと」の共有</li> </ul>  |
| 予定 | 第2回合同会議（2011年12月11日） |                                                                                                                                              |
|    | 第2回<br>（2011年12月20日） | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 合同会議(第2回)でのアドバイスを受けての意見交換</li> <li>■ 今年度・来年度に行う具体的な事業の検討・選定</li> <li>■ 実際に事業を担当する作業部会の設置</li> </ul> |
|    | 作業部会(適宜)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業に関する検討、実行</li> </ul>                                                                              |
|    | 第3回<br>（2012年2月(予定)） | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業部会の進捗確認</li> <li>■ 今年度事業の実現に向けた確認</li> </ul>                                                      |
|    | 第3回合同会議（2012年3月4日）   |                                                                                                                                              |
|    | 第4回<br>（2012年3月(予定)） | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今年度のふりかえり</li> <li>■ 次年度のアクションプランと課題の整理</li> </ul>                                                  |